



三の五

日産関係記録

外務省

国立公文書館	
分類	持株
排架番号	3 B
	14-13
	④4908

4908

財閥関係役員審査委員会議事録

昭和廿三年二月二十三日

一、外務省有會議室に於て

午後三時四十分開會

○上田委員長。本日は常委員会と致しまして、財閥関係

族支配力排除法第四條に基きまして日産財

閥並に本社各関係会社に對する人事統制を

中心とする關係を説明して頂きたいという意味

外務省

裏面白紙

ご御出席を願った次第がありますが、御承知の  
如く同法の第廿一條には事實の説明をなさる場  
合、虚偽の申立をなしたり、又はかくしたてて申立を  
致しますと罰則の適用を受けますから、その点大  
御注意願います。なお説明をなさるにつきては  
餘り時間がありませんので、實に残念でございます  
が、三十分位の間に説明を願って、後は委員の

外務省

裏面白紙

方々の質疑に對し御答を願うといふことに致し

ますから、その点をお含み願ひます。

○神谷氏。當時の事情を一番よく存じて居ります岸

本君から説明致します。

○岸本氏。私、大正六年に久原鉱業株式会社時

代に久原に入りまして、久原商事、大塚鉄工所、日

本産業、滿洲重工業に勤めて居つたのでありま

外務省

裏面白紙

すので、古い関係も比較的存じを居りますので、

神谷さんから御希望が来りましたら、説明致します。

日本産業株式会社というものが、財閥である、と世間

でも思っているし、こちらでもお考になつて居るようによ

えますが、私共の感じから申しますと財閥というもの

が所謂家族——ファミリーといふものと関係があると

考えますと、私共の感じでは日本産業株式会社

裏面白紙

はなつてからアメリカが有りから、それを一應市房と原  
系にて置きました。お話を進めたりと思つて居ります。

日本産業株式会社は大正元年に元の久原房之  
助さんが盛んで居つた久原鋳業所から変更されま

して、久原鋳業株式会社になつた。無論その當時  
アメリカも比較的久原さん個人の力が一久

原家の力が非常に強く参つたのでありますか、

裏面白紙

大正九年の第一次歐洲大戰後のパニックに際しま  
 して、東京関係の重要なる商業会社であり  
 ます。——莫大なる損失を蒙りまして、約八千  
 万円と言はれて居りましたが、東京は、商會  
 社は株式会社ではありませんけれども、個人補償の  
 形で、財界に色々な悪影響の波及するのを恐  
 らしめて、個人補償による難局を打開しようとい

外務省

裏面白紙

うが久原鋳業株式會社の持株二十數萬株を  
銀行に提供されまして、一應久原金体の崩壊  
免れた次第であります。

その後久原鋳業株式會社の株式は銀行の手に  
よりましてこの財界の安定と共に方々に處分され  
たものと見られます。昭和三年頃には久原鋳業株

株式會社の株式の持分は久原家に殆ど無く行方不明

外務省

裏面白紙



ま、とて、名前の儘残るる居りますが、久原さんの  
 事業は殆んど消滅してしまつたよるな形であります。  
 偶々大正十五年に久原さんの病氣になりまして、その  
 當時再起活動が難しいといふことであつたから、経営  
 者の要望に應じまして鮎川義介さんの面倒を  
 見ることになりました、そのうち久原さんは実業界に  
 嫌氣が差しまして、昭和二年の暮で引退しましたか、

裏面白紙

海外経済調査員となって歐洲に行き、昭和三年の

三月には會社の方を辞め、政界に入ることになり、

後を鮎川が継承致しまして社長になり、經營を

續けて行くことになりました。従って鮎川さんとは

その時には別に株式の關係にかつて久原銀業と特別の

關係があつたといふ譯ではなく、強いて言へば鮎川さん

が久原さんの兄弟の關係になつて居つたといふのが原

外務省

裏面白紙

困をなして居ります。會社の苦境を打開する意味  
において、経営當業者、従業員、要領生によって手さ  
つげた。どうして會社を建直して行くかといふことにつ  
いて色々頭を悩ました結果、兎に毎その時にも一萬數  
千の株主がりましたが、その株主等の力によってこの  
會社を建直して行くという方針を決めました。そ  
れと共に日本立産業株式会社には釜山の仕事とか或

裏面白紙

は南洋の護謨の栽培でありますとか、種々を推多々  
仕事が含まれて居るが、日本産業株式会社を特  
株会社に代替えまして各種の事業を子会社の  
事業に改めて、そして進んで行くことになり  
針を立てまして、昭和三年の暮の株主総会にそ  
の会社の改組に関する件を提案致しまして、それを通  
過致しました結果、会社の社名も久原鉱業の久原

裏面白紙

の名を削って日本産業株式会社に変更、株式会社  
として発足したのであります。

翌年には日本鉱業株式会社を合離し、次に南洋に  
護護の仕事として居った日産護護株式会社という  
風に次々に合離をして、そして昭和六年の金の輸出の  
再禁止の後で日本鉱業の株を一般に賣出すといふこ

とに致しました。持株會社の經營を致しましてずっと

外務省

裏面白紙

大きくなりましてたのは昭和九年の三月でツカリましたか

共同漁業、東洋捕鯨、大日本製氷會社、大阪鉄

工所の四社を合併致しまして――間もなく分離し

て新しい事業としての独立會社に致しまして、日本産

業の子會社に致しまして――その時々の狙は、例へば

大日本製氷の株はその時三十四位に上りて、日本産業

の株が百二十四位に上つたのでありますか、日本産業

外務省

裏面白紙

の株式一株を渡して大日本製氷の株を四株分けまして  
 帳簿の価格ではこちらの一株を出しまして大日本製氷  
 が四株で済みますから、二百円に當る株をこちらの五十  
 円の株と交換する譯でありますから、従って大百  
 本製氷の不良資産がありましたけれども百五十  
 円を加増して新しい會社になる、鮎川さん、それは  
 日産の企業浄化事業とか言つて居りましたが、元々

外務省

裏面白紙

第一次歐米大戦後の日本政府の方針が、企業業の  
 方針を促進する、増産を促すに便におよぶ  
 ったるかと思つて居ります。さういふ形で、日本  
 製氷の例で申しますと、大きな会社が不良資産  
 のあるものが、日産に入れて、弾化して、新しい会社に  
 したおいた。株主は、見れば、マーケットプライス  
 から致しまして、一文の換も無い、すぐ配当が来ると

外務省

裏面白紙



という、持株会社の効能でシカramさせるか、更に大  
 きなるは、色々を事業を傘下に収めて居れば、自  
 動車工業のような新しい会社が、當分配當を望め  
 ない会社は、日本産業として進めようことがあまる  
 ところ、大きな國家的仕事を廣く手をつけ  
 て進んで行こうという方針が来たりてあります。で  
 いろいろ氣持で居りました。

外務省

裏面白紙

大日本人造肥料の合併致し、そのうち  
 三重課税の問題が起きます。日本産業もその  
 持株会社の機能を十分發揮するといふことが利  
 約され、状態に於て居るが、偶々満洲國から餘  
 川支に満洲に来て、満洲の重工業の開發を  
 やすくするといふ話がありまして、それで日支の  
 満洲移駐と云ふことになりまして、それ迄にあ

外務省

裏面白紙

りましたコニツエルン 機構としての日本産業は解  
体致しまして、半官半民の満洲重工業株式  
會社になつたのがあります。

元々は今申上げましたように、フタリといふ概  
念はなし、事業単位で進歩を居りました関係上  
例えは大日本製氷を合併するとか、若くは大日本

人造肥料を合併するとか、東洋捕鯨を合併するとい

外務省

裏面白紙

うようなことを勤められた場合にも、人事の場合にも

日産の傘下に入ったからと言って、日産から新しい人か

首脳者に入ると行くと、これも記憶があります

世。大抵元から居りました経営者が居りました

新しい会社として日産の傘下になって、金融的利

便を得たというように、例を東洋補綴

に取りますと、東洋補綴株式会社は総代理

外務省

裏面白紙

金を集めて、南氷洋に進出—など言つて居りま

—しかし、資金の捻出が出来ないという状態になりま

した。南氷洋の伝事は日本の國家的に見ても

是非進出—をけしはならぬ伝事—といふので、経

営者の意向が鮎川玄の共鳴と申しますか、因

意を得まして、—會社に入つて、さういふ風によ

りなさいと言つて—東洋補給が又台體をなすお集

外務省

裏面白紙

ましむ時も陣容は強んど、私一々記憶して居り  
 ますか、首脳者は勿論のこと、新しい人か入つても  
 日産でコントロールするということはありません。兎に毎  
 日産に入つて、大きな仕事をやって行つて、人かあれ  
 ば——同志的結合が出来るという意味合いを以て  
 ありまして、<sup>企業</sup>細々して人事統制にこの取極を云  
 々するといふことはありません。東洋捕鯨に致し

外務省

裏面白紙

まゝでも、例へば大日本人造肥料に於いても、  
大日本製氷に於いても、何れの場合に於いても  
ても若しも独裁という感じがあるなら、どちらの人間を  
置替ふといふことがあるらうと思ひますが、それあるか  
故に短時間に日産主義を強行すると言ひますが、  
同感を得る人があつて、短時間に大をなしたのでは  
ないかと思ひます。

外務省

裏面白紙

之れと同じ意味合におきまして満洲國に鮎川  
 さか招聘され、満洲重工業を經營するとい  
 うことになりまふ際も、満洲國創の條件と申  
 しますか、つまり満洲の重工業の特定の利潤とい  
 う、<sup>（ものか、ある特定の）</sup>サークルト行くのはいかんといふ建之財であつたか  
 ら、その見地から行きますと鮎川の日本産業株  
 式會社の機構が、満洲國の産業を開發から生ずる

裏面白紙



利潤の一般に公布されて、普通の局限をたが  
 しくルに行かぬといふ點——大いに買はれたことが非  
 常に多かつたと思つて居ります。従ひますと満洲  
 國に参りまうしからは、特に日本内地の事業につ  
 いては、政府の御意向(お局)もありません。内地會社の人  
 事の統制を行ふ時間はありません。事實も  
 ありませんが、事實滿洲重工業開発會社が出

外務省

裏面白紙

来まする時に、政府の閣議決定がありました時  
 に、鮎村は滿洲重工業に専念するつもりから  
 企業を代表する諸君のものを手放して、資金を  
 滿洲國の開発に充當せよという「項目が、さ  
 ましたる。  
 たゞその當時帳簿價格に致しまして二億數  
 千万の株式を一気に市場に売却すること口

外務省

裏面白紙

株式市場に悪影響を及ぼすはなりかという

懸念から、閣議決定の文句の「売却」というこ

とになつて居たのを「日本産業株式会社」の保有

する株式を運用して………と云々」という言明にならざる

して、担保に入れるか、必ずしも売却のみを指さな

満洲國の事業を推進する、資金の調達とする

といふことに變つたのでありまして、その時の満洲國

外務省

裏面白紙

政府の意向と致しましとも、爾今専ら満洲國  
 の事業に専念すべきものであり、日本内地の會社  
 の株式を早かり機會に——適當の機會に處分すべ  
 きものな<sup>ら</sup>という<sup>こと</sup>にな<sup>ら</sup>ず居<sup>り</sup>まして、從<sup>つ</sup>まして内地  
 會社に對する人事の統制は持<sup>つ</sup>て居<sup>り</sup>ません。勿  
 論日本之産業として満洲に參る前は人事の統制  
 は取極<sup>め</sup>ますと思<sup>ひ</sup>ますが、<sup>々</sup>し<sup>し</sup>字<sup>々</sup>は<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>い

外務省

裏面白紙

程——或は鮎川さんか偉く存じたら——を事りたも  
のが取極もあつたかも知れませぬか。来人も迎へ  
る人も立派な仕事をして行くのではなうかといふことが  
主になつて居つたので、當時の日立佳にしましても、  
會社の統制をする機構を持つ程の人員もあり  
ませんし、監査役がお来たといふことはありませんが、こ  
ちらの人間を入れど、斯うするといふ程必要も

外務省

裏面白紙

なかつたのでせうか、事實ありません。人事統制を  
主として面から申上げますと、その位で大派遣きさる  
のではないかと思ひます。

の大島委員。義済會はかういふ性格のものでござい  
ますか。

の山本氏。鮎川の昭和十二年に満洲に参ります時  
に、當時満洲國政府は勿論でありましたが、

外務省

裏面白紙

東軍においても滿洲を開発するには外資を導き  
 入して、その外國の資本、技術に頼って滿洲國の  
 重工業を完全に、急速に開発しなければなら  
 ないという意見であった。それで日産の滿洲移  
 駐のおよむか、昭和十六年に大東亞戦争が  
 勃発致しましてから、熱河が滿洲に行つて組  
 織員徹のチャンスが崩壊したものでありますから、特

外務省

裏面白紙

に満洲におりて鮎川が色々経験し、その実隆  
の事業運籌の上から見て、経済の特殊研究  
機関がなければいけぬと痛感したのであります。  
満洲における経験と申しますのは、初め鮎川  
が満洲に参ります時に、重工業の開発につ  
いては政府並に軍が完全にフリーハンドを與へ  
て、思う儘にそれをやさふよりはなれかと考へて

外務省

裏面白紙



期待も居たかあります、行つて見るとな  
 か、どうでない、色々注文がある、そして殊に  
 外資の道す入が出来なから益々それが困難に  
 なつて、従つて該局、鮎川の感と致しましては、  
 斯ういふことを申上げますと甚だ失禮でありま  
 す、商賣をやつたものない役人、軍人、は、鉄を  
 何万噸造れ、石炭を何千万噸造れといふ注

外務省

裏面白紙

文があつても、それを満たし得ない條件を説明  
 しなくてはならない。元々鮫川はエンジ  
 ニヤードで進まざるから、財政、経済の研究特に演  
 練機関を作ること。これを作ることは非常に難  
 しいことではあります。キア壁のボタンを押すと鉄  
 一百五十万噸要する時に赤いダイヤルがある。もう一  
 つのボタンを押すと石炭八千万噸作るのに、タイ

外務省

裏面白紙

ミンクを考慮に入れて、どういふところを考慮が必要  
 かと、いふこと。実物によつて、それを自見することが出来  
 るか。成程と、いふことは出来ないも、或は  
 出来るも、たといふことか、今と思ふ。つまり船を  
 造ります時、ミンクの中に流航型の模型の船  
 を走らせて、抵抗を見ることが、スピードも見ることが、具  
 体的に色々と、最初パイロットプランを作つて、そ

外務省

裏面白紙

ねはよして日本の経済を——政府からある方針にし  
 ても、決定されらるるお國に盡す所以ではなかりかと考  
 え居た。滿洲重工業を四能めた上はさういふ機  
 関を拵へて、それによつて研究して行きたらという希  
 望があつた。その當時、高野先生、大内先生に自  
 分の考があまふもつかどうか聴くと呉れという話であつた  
 が、その時は駄目だ、経済に実験はあり得ないとい

外務省

裏面白紙

言付れまゝだが、これは経済学者が考へたことで、

自分等エンジニアが考へ——機械の専門家或

は数値の専門家を集めて工風をすれば、特別な

経済の演練機関が出来るとはなりかといふので

作つた。段々さういふ経済の先生の話を聴いて居る

中には、さういふことは難しいことだといふ感じが致しまし

たが、例えは、戦争中、北行機三萬台が出来

外務省

裏面白紙

ノるくはあいかというが、どうも各役所から――商工

省とか軍需省から色々注文をつくられる。そこで

各役所を代表するよきもの、大きい部屋があつて

其処に各役所の人が出て来る。民間の人もある

て来られて、一緒になつて、木造船五千万噸、飛行機

三万台という計画に對して――初めから出来ることは

かゝる居るか、出来ると思ひ付けて居る。それに又生産

外、務省

裏面白紙

増強の命令が出るから、どこまで出来るか、目で見

るもの、圖を書き出して示すというものを描きたいというの

か、その考であります。おまゝからいへば實際におい

て機密というところが非常に煩しうて、データーが

一つも出せないといふことか、分けて、開店休業をして居り

ましたか、経済痛練の機密を作るという気持ちで

作ったのか、その経緯であります。

外務省

裏面白紙

○大島安多。 船川さくの任事では三菱、安田の本社

に該當するものは日産というような形ですか。

○出戸本氏。 日本産業株式会社取締役社長として居

つたのをいいますが、三菱三菱の本社に當るものは

日本産業株式会社であつたのです。 それか子會社の

株を持って居るのではありません。 今申しますようにフア

ミリーということもな人の親令も——私共勤めて居

外務省

裏面白紙



入る居りませんし、各社の重役も  
 鮎川に勤めて居るといふ気はない、日本産業株式  
 会社といふ、強いて言へば、鮎川即日産本社に  
 行ったかと思ひます。鮎川が金を持って居ったかと  
 申しますと何もない。非常に偉かつたので特別の  
 規則もなしにやうて居ったのであります。

〇神谷氏。今の日本産業株式会社と株式会社日

外務省

裏面白紙

産とは全然違ふと申してよろと思ひます。

○大倉の委員。戦争中は、義済會と申しますが、あすこが

本社のようなものがあると聴いて居りますが、どういふ

ことはありませんか。

○岸本氏。全然ありません。

○大島委員。あすこで相借田の重要なことをやられるのだとい

うことですか。

外務省

裏面白紙

岸本氏。 會社経営について、どういふことは全然ありません。

大島委員。 先程のお話ですと、文書とか、どういふ取極はないという話でありますか、口頭で御相談になるようなことはなかったですか。

岸本氏。 各社の社長は大体履歴をご贈りになつたりお分りと思ひますが、日本産業株式會社社長として

裏面白紙

鮎川如日産関係に臨んで居ります時は、取締役会議で今度は誰々を重役にしたいという話があったらうと思ひますが、それが爲め拒否した例もありません。同じ親戚関係と申しますか、日産の傘下に入った者の重役の選任につては名前も顔も知らなれども、あつたらう者かなりますと、いふことはあつたらうと思ひます。

金融関係の摘

外務省

裏面白紙

當の人のわたくしの処に心當りなかりからと言えは、  
 それでは、これはどうかと言つて推薦することがあるに  
 ろうと思ひますが、しかし私自身のおもしろいと思  
 いますのを、鮎川が是非をうしろと云つて、それをア  
 ーヌするリーガルカードはなかったのがあります。其  
 処に——一緒に仕事をしようといふ人が来たので、  
 株の過半数を掌り握して、自分の意思を、そこに

外務省

裏面白紙

サニすることはありません。若しも運送が一つの団体  
 として若くはアソシエーションとして、グループとして動  
 いたとしても、鮎川は生命と言いますか、若くはキャウ  
 クターといふ結合があつておつて居るわけで、スベリング  
 一から来た力はなかつたと思ひます。

〇平岡委員。満蒙の總裁になつてから、満洲投資証  
 券が満蒙所有の株を肩替りしたのは昭和十七年

外務省

裏面白紙

年頃になつたが、その期間三四年あります。その

間に鮎川さんは新京に居られました。鮎川さん主

宰の人事統制が行はれて居なかつたと仰有られます

か

の岸本氏。行はれて居なかつたと思ひますよりは、人事

の移動も殆んどなかつたのではなかりかと思ひます。という

ことは昭和十五年の五月に滿洲投資証券が出来

外務省

裏面白紙

まして、設立が六月で済みましたか、昭和十七年の  
 頃には株の移動があつたか、當時——初め申しまし  
 たように日本産業業が保有して居った株式は早晩  
 と申すよりは早い機会に処分されるものでありま  
 したか——後で見せられたが大抵さういう経緯  
 で保険会社に肩替りになつたのであります。尤  
 白ごくなりまして三保幹太郎が理事長をやつて

外務省

裏面白紙



居ったか、この人は日産にとりまうては比較的新しい人でありまして、日産関係の社長あたりから目に入りますと後輩軍でありますか。株式は保有されて居ったのでせうか、人事が左右されるということはありません。たゞその人は鮎川さんが満洲からあの人事をどうせい、斯うせいという立場には、無論ありません。

どちらかとの相談も、特定の機能を持った辺の推薦

外務省

裏面白紙

といふことがあれば——財界の長老と申しますか、

旧日産関係の長老として相談を受ければ推

薦したと思ひます。大体残して居ります首脳者

並に経営者の重役が時代／＼の特質性をも

増して進んで居つたといふのが事実であらうと思

ひます。

〇平岡も多。満洲に行つて居られる向に旧日産関

外務省

裏面白紙

係の色々の人事は餘り変化はないというのですね。

○岸本氏。 各社の独立性が十分とも人事関係は強

かに増して来たと思っています。

○平岡委員。 満業の會社の役員になつたのを知らせうね。 今

長とか相談役とかとして残つて居る人でせうね

○岸本氏。 相談役としては、界線を退かれました

からまだ残つて居ります。

外務省

裏面白紙

○山田要夫。市親類は、どういふ方をですか。

○神谷氏。北藤田之の市兄弟をいひす。父系老男

まの親類ですか、その程度であります。

○山田要夫。鮎川之が満洲に行かれた途は日産に居

らねど、日産の中心で、東京に居られた時は日産

に居られたんじやね。

○岸本氏。殆んど日本を卒業して……、新卒に自動車

外務省

裏面白紙

工業を起こそうと思えば新しく進んで行く、関係

会社の社長が時に仕事の報告で見えることがあつ

ても……。私は日本工業界の大きくなり立ちます服

和十一年から秘書役としてやうに居つたか……。

の山田委員。丸ビル近くの、あすこに居られたのですか。

の岸田氏。此地(サ、田村町)に来たのは昭和十二年の夏

です。日本産業株式会社時代は丸ビルの近く

外務省

裏面白紙

の方にあります、あつて……。此処に素で満洲  
に代ったんがあります。大体日本産業は向うがあり  
ます。

○山田委久。 満洲から帰られてからは……。

○岸山氏。 義済會に居りました。

○山田委久。 義済會は満洲から帰られてから設けられた

のつすか。

外務省

裏面白紙

○岸下氏。 滿業總裁にまだ在任中作つたと思ひま

すか。

○山田委員。 事務所は此処にありてんですか。

○岸下氏。 今申しましたように、オベリニクシグのセアター

があるから——此処では且つ金が悪いから、帝創とか

大きなものを手に入れた、あまかほ其処で仕事をし

たりと言つて居つたが、その城に昔(幸)しりて、ミニに

外務省

裏面白紙

帰って来たのであります。本年の春に帰って来まし  
 て、彼此して居るうちに、十九年には海軍から追  
 つかれて白木屋に行つて、焼けて、その際たにもまじ  
 り居つたから、鮎川としては、甚時間を使ったところ  
 は、エンパイヤーホルの隣りの処に本家がなつたのです。  
 の山田委多。日立関係の方で作つて居つた団体はあり  
 ますか。

外務省

裏面白紙



○山岸幸氏。日産金銀がす。

○山田安次。それはどういう方をいすか。

○山岸幸氏。先程申しました昭和十七年の初めには、

洲に居ても仕様がな、自分は帰るから——第

一線から退りて、経済関係の特殊機関を作つて

ありたいというので、日立造船の山田切の中心になつ

て、造船仕事を上げたいというので

外務省

裏面白紙

伊豆の大島に行きまして、氣に入つたので、東京から  
 横浜の一千万人の人のリタリエーション・ゲラントに  
 して、万噸級の船で、朝発して夕方帰つて来た。ら  
 れるという風に、伊豆を開発したいと言つて居た。  
 それは面白いから——當時、各社が株式会社日産  
 の株式を通じて持つて居た資産を合けて、株式会社  
 日産は——日本産業株式会社になつて、

裏面白紙

日産もなくなつたから、その名前も残して、公共

事業をやつたらより、はなりのこと、やつて居つた

のです。冊子の計画だけは出来て居つたか……。

○山田安彦。それが……。

○山岸平氏。それの日産會です。

○山田安彦。さばーは。

○山岸平氏。各関係會社が入つて居つたから、社団法人

外務省

裏面白紙

の社長になつて居る。會社の社長であつた。鮎川が

會長、私が専務理事、その他二三人の人の事務

○山田委員。人をメンバーにいたものはありませんか。

○岸平氏。日産關係の社交クラブがあります。いつ頃出

来ましますか一寸分りませんか、懇話会があります。そ

れは日産のこぢらに集つてから、今の外務省の倉田王

外務省

裏面白紙

になつて居る場所、一ヶ月一度集つて、時々名士の  
語を聴きたりして居た。部長位か出て居たので  
此う。そろいゝ會合は、法人格でもなし、たゞ飯を食  
う會合に過ぎりません。戦争になつてから中止したと聞  
います。

○山田委員。何人位出て居りますか。

○岸本氏。全部で二百人位居つたでせうね。

外務省

裏面白紙

○山田委員。これは各社の重役も……。

○岸本氏。各社の部長級位にせうね。

○大島委員。鮎川之の取高スタッフと申しますか、取

も近々幹部には、どういふ方が居いましたか。

○岸本氏。鮎川という人は、なにしろ桁の外れて居りました

左から……。

○大島委員。自然リンクのつくりはありますか、鮎川

外務省

裏面白紙

さへの次の人——鮎川之が居られり時はどなたか代つてやるという事はなかったのですか。

の岸本氏。單に順序から申しますと、伊藤文吉さんとか。ビジネスマンではないから、誰も、鮎川さんの御田

守りから伊藤さんに行くという事はありませんがせうしね。その時は自分がやりました。亡くなった

山田敬亮が日本産業の専務、下河邊建二

外務省

裏面白紙

えんが専務でシテいます。鮎川さん一人がやって

居ったんですね。事實、例えは三井とかのよりに鮎

川さん自身も大した金のある譯ではなし、殊に日

産は財閥にもありませんし、鬼に舟、株式が分散

すれば経営者に力がつくのかから、自分を捨ててし

まけなければならぬといふので居る。日産関係の

重役で郵宅らしい感じ居る人は一人も居りません。

外務省

裏面白紙



青山や世田谷迄には住んでる者は居ません。皆小さい  
 家に居るのみです。大日本制鉄と合併する時も、大  
 日本人造りでも、日産の給料が悪いから合併が出来  
 ないのは分かるという程です。

○脇村委員。そういう合併の時は、鮎川さん自身で  
 みるやられるのですか。

○岸本氏。大体相手側と折衝がですね。

外務省

裏面白紙

○ 脇村委員。鮎川さんか直接やらねえですか、その時の

細かい記録はどうかございますか。合併の交渉です

から色々細かいことを、話の過程においての色々の記

録は……。

○ 岸本氏。記録はなかったのです、私の秘書役として

お傳へして……。

○ 脇村委員。あなたも記録をしませんか。

外務省

裏面白紙

○岸平氏。記録は取之居りません。

○協材委員。鮎川氏は各会社に関係して居りません。

と、いろいろ会社から書類を圓付して来るとせう、或は合

社から、これはどうしますと、と御相談が来るのでせう

ね。

○岸平氏。大きなことはあつたにせうか、大したことはありま

せん。

外務省

裏面白紙

○脇村委員。どうも、この書類を持って来た時に、秘理はとう

とう風になつて居りましたか。

○岸本氏。書類で事業の報告をおしませぬね。

○神谷氏。私は約三十年火火の方を受持つて居ります。

し、私が、御相談に行きますと、マアいいよ、と言つて相

談になつたりします。

○脇村委員。相談に行くと、記録は誰か取りますか。

外務省

裏面白紙

○岸本氏。 神谷さんの其処に行くら、全部委して居

ります。

○脇村安久。 金権を委せるといふ意味で……。

○岸本氏。 私としてではなく、人壽社にっくは、内容がな

いというやり方ですね。 つまり先刻、私に申上げまし

たように、短時日に非営業に発展したものでありますから、

新しいエーリアで出来たものは、相當に行けはより

外務省

裏面白紙

ではなにか、という風です。

○ 脇村 委員。あなた（神谷氏）は御関係の会社に元か

ら入って居られたか、あなたと鮎川 さんの関係は

どうですか。

○ 神谷 氏。私は元々東京証券業時代に入りました。

○ 脇村 委員。そして、どういう経歴をとられたのでしょうか。

○ 神谷 氏。最初三井銀行に入り、それから東京証券業

外務省

裏面白紙

へ行き、久原商事のおまゝに、あつて

米財政経済委員といふものがありまして、小池さん

<sup>出資</sup>外務省に居りまして、<sup>と、</sup>その前（と、から、<sup>）</sup>第一

軍の時に銅とか軍需品を英國に納入する用

があつて行つて居る。が第一次遣米財政経済

委員といふ行つて、當時ロンドンに保険の中

地がありましたので、で久原商事のおつて

分 務 省

裏面白紙

形になつたので、保険會社に……。

○脇村委員。どの火災ですか。

○神谷氏。中央火災に關係するようになりまして。それ

が日産火災になつたのです。

○脇村委員。久原商事から……。

○神谷氏。久原商事から直ぐでは有り、解散して遊

んで居つたのですか、それから保險會社に入つたのです。

外務省

裏面白紙



○陽村委身。ある時代は累收されたといふことになりま

すかね。

○神谷氏。大正十一年に私入社致しまして。

○陽村委身。中央火災はいつ累收されたのですか。

○神谷氏。昭和十二年です。十年程成績が上ら

なりました。

○陽村委身。それ迄は鮎川支と関係がありませんか。

外務省

裏面白紙

○神谷氏。さうです。

○腸村委員。買収されました時は中央火災の日産大い欠

に成った。重役はどうかになりましたか。

○神谷氏。その時の重役は、私は五キスバートとして

残りました、やつて居りました。

○腸村委員。それ以外に、何人居ったのですか。

○神谷氏。その儘残って居った人と、外務省 非常勤、その他

裏面白紙

御承知の通り保険會社は名目上の父であつたから、  
相借田の名士が居りますか、日産関係の人です  
か、それ以外には大した人は居ないと思ひます。

○脇村安次。その人は鮎川さんの任命して日産へ入つた  
のですか。

○神谷氏。契約関係から任命したうです。契約が  
欲しいから、中央火災を日産に持つて来るのは

外務省

裏面白紙

豫定の上りなりものを日立産と一緒に買って、成績  
を上げるといふ……。

○ 脇村委員。その時に、役員を決めたのは誰かといふの  
がすよ。中央火災から日産になつた時に、役員  
を決めたのは誰か。

○ 神谷氏。なるべく契約を澤山持つて居る人からあし

て……。

外務省

裏面白紙

○脇村委員。

誰々。

○神谷氏。

小田切さんとか石川さんとか……。

○脇村委員。

あなたか……。

○神谷氏。

その時の社長は伊吹えんか……。

……。

○脇村委員。

元来日産関係の人ですか。

○神谷氏。

製氷関係の人ですか。

外務省

裏面白紙

○脇村委員。冷凍関係から保険倉社に未反のり

か。

○神谷氏。冷凍倉社と漁業会社と一緒になつて日

本食料工業会社となりまして、その社長にな

つて居りました。それが保険倉社の社長になつ

て居つたのであります。

○脇村委員。中央から日産に居る時に誰か

外務省

裏面白紙

○神谷氏。それは鮎川さんだろうと思ひますね。

○脇村委員。合併して、どっちか……

○神谷氏。推薦さんでせうね。

○脇村委員。あなたがお戻りになるのは、誰に頼まれ

たのですか。

○神谷氏。私が残ったのは、社員同から——私の

番古りから、社長の要望もあり、鮎川さん

外務省

裏面白紙

希望して居られたので。

○脇村委員。 鮎川えんからお話があったのですか。

○神谷氏。 任期も来て居りますし、株主總會から

送られた。實際の意思は、鮎川えんも希望

して居られた。

○平岡委員。 決定の時に、誰がやったかということがホ

トイントであるかどうことを聴いて居るのですよ。

外 務 省

裏面白紙



○神谷氏。今申上げたことが事実でありますし、何故

かと申しますと、中央火災の日産に移る時、中央火

災は非常に困って居た、八年位無配である。で

困ったものだから、どうか持つて行くのを許せばならぬと

いうので、物色致しましたところ、日産だけが火災保

険を持つて居ない。ところが長年無配なから

非営業に株の安し、あか／＼引受けして呉れない

外務省

裏面白紙

色も話も出まして、なんとかして盛り立てるからと  
言って、持って行ったものです。

○平岡重久。いなたの処に持込んだのですか。

○神谷氏。鮎川さんの処に持込んで行きました。私と二三

人で持って行ったんです。

○平岡重久。山岸本さんに聴きたいのですか、そういつ時に

は鮎川さんが決定なさるんですか、いなたかに御相

外務省

裏面白紙

談なっていますか。

○岸本氏。若し相談されたとすれば山田敬亮、下河辺

連ニあたりでせうね。大体意思の決定は鮎川

さんにあててせうね。しかし、金融関係があれば、そ

れは相談されるというよりはありますね。

○平岡委員。そういう大きな會社も、新しい仕事をせう

から、即自身の頭でお考へになるだけか、極く

外務省

裏面白紙

近江方一人に、インフォーマルに御相談なさるわけに、

正式に御相談することはありませんか。

○山本氏。フォーマリーには一次の取締役には報告

すると思えます。

○平岡委員。しかレ合併と云うことはなかく面倒なこと

ですから、書類として受取られたものではありませ

か。

外務省

裏面白紙

○岸本氏。自分で整理されたかも知れませんが、書類

はみんを焼きました。今の中央火災の場合にして

も、書類類です。程もありません。考え方は、

レスキューマンに、本社の機構として、それらも残さ

んという事は、創設は満洲に自産の居る時にも

普通の重役は、相談して居るが、正式の重役

會も開く迄は知らなかった。ですから市場にも噂

外務省

裏面白紙

もあつた。會社の合併等につきましては、非  
常によく秘密が保持されたといふのは、書かれたも  
のがなかつたかと思ひますね。

○平岡委員。 保險會社を合併されて、役員をお決めに  
なつて、従来の經營をやめて居られて、専門家に  
お委せするといふことで委せらる。委された方は半年

に一度、期末に一度報告に行く、報告も聴

外務省

裏面白紙

かなりで道場にはやっています、と、いろいろやり方ですね。

○神谷氏。私の経験から申ししましても、いろいろ風ですね。

○平岡委員。あなたのお会社の役員が替る時は、いろいろ風

は、いかにですか。

○神谷氏。私は関係して居りません。

○平岡委員。社長と鮎川さんとでやっていますか。

○神谷氏。そうだろうと思つて居ります。

外務省

裏面白紙

○平岡委員。 魚沼さんは、あなたの会社の役員になって居り  
ましょか。

○神谷氏。 満洲に行かれる前に一度お会いしたいね。  
一寸お言葉を居りませんか。

○平岡委員。 現在は保険会社に勤務がおりますか。

○神谷氏。 昨年の暮りにハイハイに居たものから、私か

株式会社日産へ行きました。兼任は許さないと

列 務 省

裏面白紙



ら……。尤もその前か、會長になつて居て、保隆

會社の実務は執りて居たので……。

○大島安久。鮎川さんの満洲から昭和十七年に歸つて

から、東線と關係を絶つて、主として義勇會の仕事

をされ、餘り關係会社に干渉されなかつたといふ

風にありますか、どういふ実情ですか。

○岸平氏。實際どうであります。昭和十八年の春日歸

外務省

裏面白紙

こままきして一軍と役所が言ひ出すと干總あま

ません、人事自任にしても干總あまなりと思ふ。

況んや経歴にありておやである。大体に、會社が重

工業界がシカりますから、軍の監督が強かつた。日

本水産の如きは農林省の關係で、統制會にな

るからは干總しません、事實干總しなかつたと思ひ

ます。

對 務 省

裏面白紙

○平岡委員。義済會の規約はありますか。

○岸本氏。寄附行為のシヤリます。借入用としてならコソ

ビ—がシヤリますから差上げます。

○平岡委員。株式会社白彦の収束田はどうですか。

○岸本氏。株式会社白彦は主に不動産管理—

この建物の管理です。共済協會と申して、そち

らに所有権が行って居ります。

外務省

裏面白紙

○山田委員。 會社の名はなんでしょうか。

○岸田氏。 會社名はありません。

○山田委員。 为什么呢。

○岸田氏。 元海軍の共済協會なんです。 それか

今、共済協會の名の下に……。

○山田委員。 これを所有して居るのですか。

○岸田氏。 昭和十一年に追いつかされて——家賃院

外務省

裏面白紙

利令とくろみあるが、買戻の条件をつけて、海軍が  
 一旦買戻というが、と、ころか海軍が直接買戻と  
 いうことは豫算上の関係があるが、そこで共済協  
 會というの會に法人格はないか——金があるか  
 らそこで買戻て、海軍が使用しない時は日産に  
 返すという——所有権の移転ということなど、名  
 前はこのものにあつて居りますが、なにか信託と

外務省

裏面白紙

とか言って居りますが、公に、事実の所有を追究  
するといふことになって、こちらの名前をおと居ります  
か、株主社日産が買戻条件を持つて居る訳  
ではありません。

○平岡安久。終戦後は、海軍が持つて居るのであか。

○岸本氏。どういふことですかね。

○平岡安久。買戻し権利は、

外務省

裏面白紙

○岸田氏。 契約に海軍の使用をなす時は

日清が買戻すことを得るといふ、条件がありま

す。

○平岡委員。 値段は。

○岸田氏。 原價を以て……

○平岡委員。 買戻条件に付に買戻すものか。

○岸田氏。 今迄買戻を交わして居ますが、喜望屋し

外務省

裏面白紙

代金の第一封はなすて居るから……。

○平岡あやの。 綴らうか。

○岸和氏。 二千万円です。 戦時特別補償令が

ありますから、偶々海軍の方をくって、共済会

の名前になつて居るわけだ、大蔵省にも同情して

呉れまうか、それの適用あまないます。金を

あつたければ買戻しあまませ……。

外務省

裏面白紙



○平岡要久。 共済協会は解散になって居るのか。

○岸和氏。 厚生省の関係はと言つて居りますか。

○平岡要久。 斯ういう建物の結合理が主ですか。

○岸和氏。 そうですね。

○平岡要久。 満洲の倉社はどうか。

○岸和氏。 強んど同業機関になつて居りますか。

実情は如何か。

外務省

裏面白紙

○平岡委員。こちらに支店とか、出張所のあるのかあり

ますか。

○岸利氏。名前はありますが、購買事務を取扱

う事業以外には強んじありませんか、満洲重工業

は今のインバーターハウスにあります。

○平岡委員。人はみな帰りまーるか。

○岸利氏。帰りまーるか。

外務省

裏面白紙

○平岡安久。舞台で事務を執る居りましたわ。

○岸田氏。昭和十九年の夏頃、一噸爆弾

で日立製作所が壊れた。一噸爆弾が大きな

建物だけ狙って壊すというので、却って白木屋めを

な処は危ないのだというので、今の日産倉庫

工業は移りました。終戦の時迄居るんで、しか

し大部分は白木屋が——五階、六階は焼けた

外務省

裏面白紙

したが——仕事とせ居りました。紀尾井町に

居ったことかシテいます。

○上田赤女長。柳甚路方様と申しな。これ終ります。

午後五時 閉會

外務省

裏面白紙



